

何もかもが混在しているインド。「閑散としている」なんて場所はどこにもなく、見渡せば各種動物、各種乗り物、そして各種の人間が、好き勝手にごった返して存在している。そんな中でも、いつも気になるのが、道端で寝ている人たちだ。歩道でなんかではない。あの人たちはいったい、どういうつもりで、あんな芸当ができるのであろうか。

インドの道路では、日本のように理路整然と車が走っているわけではない。乗用車からトラック、牛の引く荷車からサイクルリキシャ(輪タク)などが、交通ルール完全無視で野放しに走っているのである。普通に歩いても、ヒヤッとすることなんてしょっちゅうなのに、そんな場所で寝るなんて。はっきり言って、いつ、ひかれたって何も不思議ではないのだ。なのに、路肩を枕にでもする感じで、平気で寝ている人々……。

男が道路工事現場の資材の砂利の上で寝ていて、トラックに頭をひかれて死んだ、というニュースも聞いた。寒い冬の夜に貧しい一家が身を寄せ合って道端で寝ていたところ、車が来てほぼ全滅した、とかいうニュースも聞いた記憶がある。

そもそも、「眠る」には、その前に「心の平安」的なものが不可欠な気がするのだが、彼らは、ああいった場所でもすっかり安心できてしまうのであろうか。最近はずすがにニューデリー中心部では少なくなったが、それでも労務者風の男などが、相変わらず路肩の実に危険な場所で見事に寝コケている姿をよく見かける。田舎に行った時には、車道のド真ん中にゴザを敷き、全裸で黒ゴマのような下の毛をあらわにしたまま、幸せそうに寝ている男を見た。両脇を車が普通に走っていた。

言っておくが、死体などではないのである。あれを「究極の自由」と言うべきなのか？と、あまりの有り様に、友だちとつい見とれてしまった。男の全裸なんかに見とれたのは、あ



インド平民通信

第1回・道端で寝コケる人々

れが最初で最後である。

「心も物質だ。だから、修行をすれば物と同じようにコントロールが可能である」という“事実”は、論理的で理路整然としたインド人の頭脳により弾き出された。インド発祥とされているヨーガの教え

るところは、「今現在に意識を集中する」ということに尽きるといふ。そして、先の心配やあとの後悔をすることを「妄想」といふ。妄想に時間を費やしてばかりで、今現在自分が行っている事だけに意識が集中できていないから、我々のような凡人は「いつのまにか」道を誤ったり、「気づかずに」人を傷つけたりするというわけだ。また、「心の平安」を得られないのも、妄想のせいだといふ。ああなったらどうしよう、なんであんなことしてしまったんだ、などという妄想が、現在を無駄にするのである。

さて、そのことを踏まえて考えると、道端で寝コケてしまう彼らは、ひかれたらどうしよう、痛い嫌だな、寝たまま死ぬなんて困る、というような「妄想」すらしなのであろうか……、ということになるわけだが、まさか彼らがそんな修行僧のような境地に達しているわけではない。そこまで究極に、未来や過去のことに囚われずに今を生きることができ、**神仏**の意思とやらに身を委ねることができるのならもう、お釈迦様に太鼓判押されて、とくに「解脱」でもしているだろう。



冬野 花(文・イラスト)

2004年よりインド在住。フリーライターとして活動し、日本にインド情報を発信。旅行が好きで、夏はヒマラヤ奥地へ足しげく通う。ヒンドゥー教文化にも興味深々。